

平成30年度 全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果について

桶川市教育委員会

はじめにお読みください。

<調査の結果をご覧になる方へ>

各小・中学校では、全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果を、一つの資料として児童生徒一人一人の学習状況と、学校全体の学習への取組状況等を把握しています。また、学力の経年変化等、学校全体で情報を共有するとともに、調査結果の分析を通して自校の取組の成果と課題を明らかにしています。さらに、その分析に基づき、課題解決のための「学力向上プラン」を点検し、児童生徒の学力向上に係る取組の改善を図っております。



今後、成果を上げたと考えられる取組を校内でも共有し、さらなる児童生徒一人一人の学力向上に努めてまいります。

また、調査の結果とその分析、学力向上に係る取組を、保護者及び地域の皆様にお知らせし、情報を共有することを通して、学校の状況をより深く知っていただき、家庭での学習にも生かしていただくことが、児童生徒の学力向上につながると考えます。

調査の結果をお知らせするにあたり、本結果をご覧になる方々には、以下の点にご留意くださいますようお願いいたします。

- (1) 各調査の目的等について、ご理解くださるようお願いいたします。
- (2) 平均正答率等の数値だけではなく、学校で分析した結果や学力向上プランをはじめとする学校の取組とあわせてご覧ください。
- (3) 本調査で測れるのは、①調査対象の教科等学力の特定の一部分であること、②学校における教育活動の一側面であることをご理解ください。

<全国学力・学習状況調査の概要>

※「平成30年度 全国学力・学習状況調査に関する実施要領」(文部科学省)より抜粋

1 調査の目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査対象

小学校第6学年、中学校第3学年 原則として全児童生徒

3 調査実施日

平成30年4月17日(火)

4 調査の内容

(国語、算数・数学、理科) 教科に関する調査	主として「知識」に関する問題 (A) ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ② 実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など 【小学校国語A・算数A 各20分】 【中学校国語A・数学A 各45分】	主として「活用」に関する問題 (B) ① 知識・技能等を実生活の様々な場面で活用する力 ② 様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力 など 【小学校国語B・算数B 各40分】 【中学校国語B・数学B 各45分】
	【小学校理科 40分】【中学校理科 45分】 ※理科については、「知識」に関する問題と「活用」に関する問題を一体的に問う。	
	児童生徒に対する調査	学校に対する調査
	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 将来の夢がありますか、授業の内容はどの程度分かりますか、一日にテレビを見る時間、携帯電話等の使用時間、読書時間、勉強時間の状況 など 【小学校・中学校とも20分程度】	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 学力向上に向けた取組、指導方法の工夫、教育の情報化、教員研修、家庭・地域との連携の状況 など

桶川市の調査結果の概況

小学校

は全国平均正答率を上回ったもの

国語	A（主として「知識」に関する問題）				B（主として「活用」に関する問題）			
	設問数	本市平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)	設問数	本市平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
学習指導要領の領域等								
話すこと・聞くこと	1	88.0	90.7	90.8	3	62.5	64.1	64.6
書くこと	1	76.0	74.4	73.8	5	42.5	44.5	45.6
読むこと	2	72.6	72.9	74.0	2	46.1	48.1	50.8
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	8	67.0	66.9	67.0	0	—	—	—

算数	A（主として「知識」に関する問題）				B（主として「活用」に関する問題）			
	設問数	本市平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)	設問数	本市平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
学習指導要領の領域								
数と計算	5	61.7	61.4	62.3	6	55.9	57.0	58.4
と測定	4	69.0	69.3	72.7	4	49.6	50.6	52.4
図形	3	56.6	56.1	56.9	2	58.0	58.6	59.9
数量関係	5	57.9	58.9	60.1	5	44.1	44.0	45.1

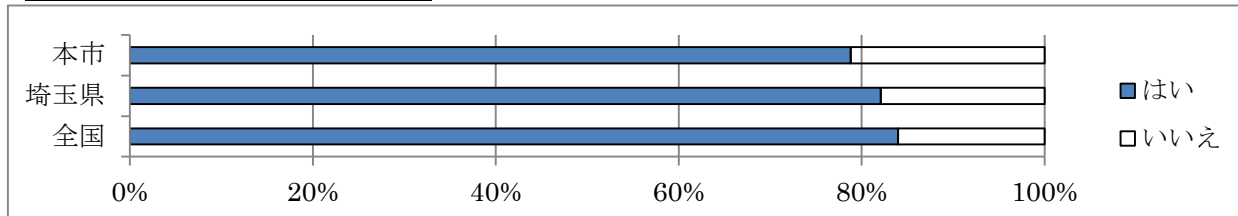
理科	「知識」・「活用」に関する問題			
	設問数	本市平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
学習指導要領の領域				
物質	4	57.4	59.2	59.8
エネルギー	4	50.3	51.5	53.1
生命	4	70.5	71.5	73.6
地球	6	48.7	48.9	49.5

<児童への質問紙調査> (主なものをグラフで表示)

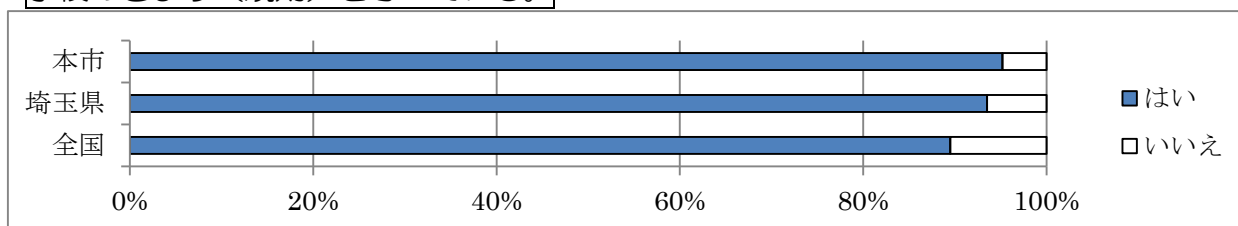
はい…そう思う、どちらかといえばそう思う

いいえ…そう思わない、どちらかといえばそう思わない

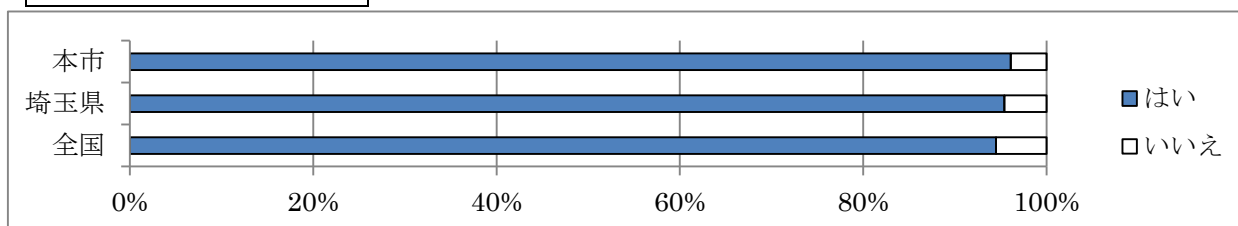
自分には良いところがある。



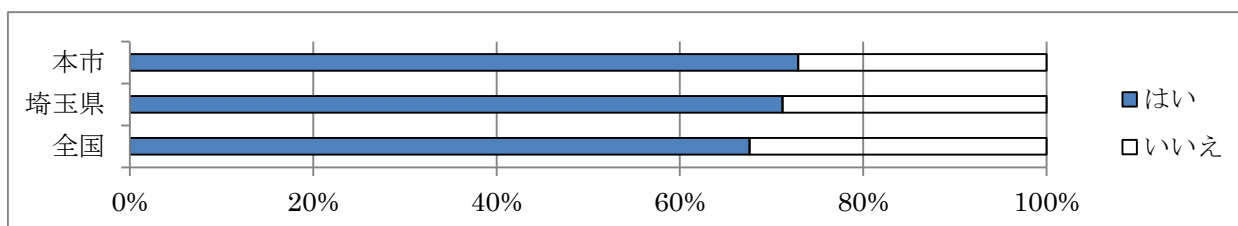
学校のきまり（規則）を守っている。



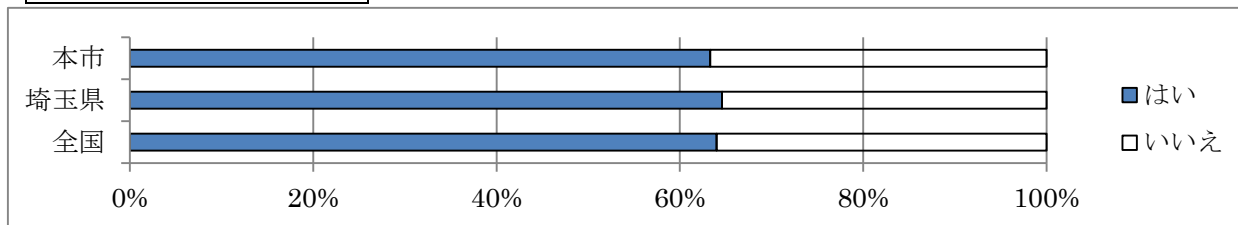
朝食を毎日食べている。



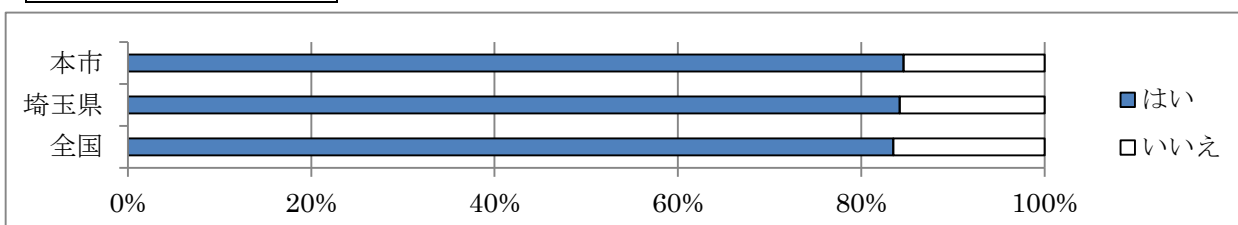
家で、自分で計画を立てて勉強している。



算数の勉強は好きだ。



理科の勉強は好きだ。



中学校

は全国平均正答率を上回ったもの

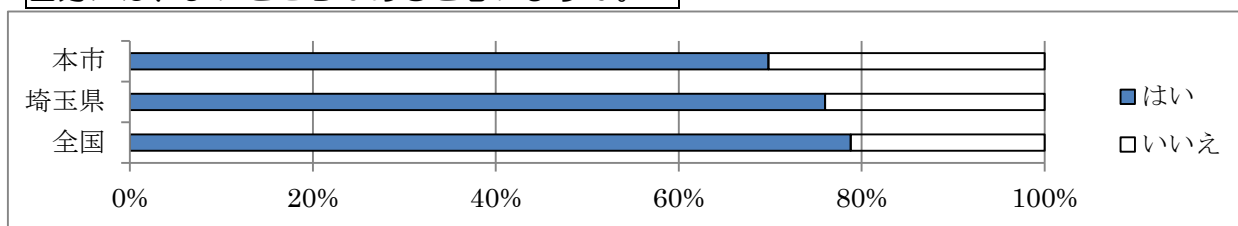
国語	A（主として「知識」に関する問題）				B（主として「活用」に関する問題）			
	設問数	本市平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)	設問数	本市平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
学習指導要領の領域等								
話すこと・聞くこと	3	76.6	74.2	75.2	3	76.9	76.1	76.6
書くこと	4	76.3	73.8	73.9	2	33.3	30.9	31.3
読むこと	4	76.8	75.4	76.7	6	55.1	53.1	53.5
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	21	77.2	75.5	76.5	1	51.7	49.6	49.2

数学	A（主として「知識」に関する問題）				B（主として「活用」に関する問題）			
	設問数	本市平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)	設問数	本市平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
学習指導要領の領域								
数と式	12	72.3	69.2	71.1	4	52.8	50.9	51.4
図形	12	69.6	68.7	69.1	3	50.4	46.4	46.7
関数	8	54.7	54.2	55.5	3	57.1	52.8	52.8
資料の活用	4	64.2	62.7	63.5	4	39.8	37.5	38.0

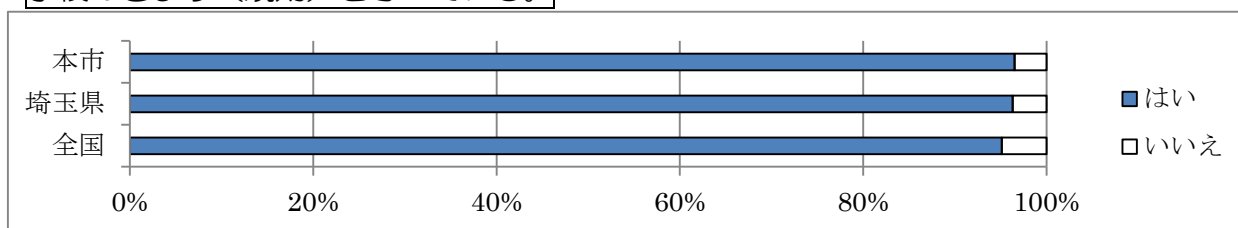
理科	「知識」・「活用」に関する問題			
	設問数	本市平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
学習指導要領の領域				
物理的領域	7	78.8	74.1	74.4
化学的領域	8	67.7	63.4	65.0
生物的領域	6	75.9	71.6	72.5
地学的領域	7	60.5	56.7	57.8

＜生徒への質問紙調査＞（主なものをグラフで表示）

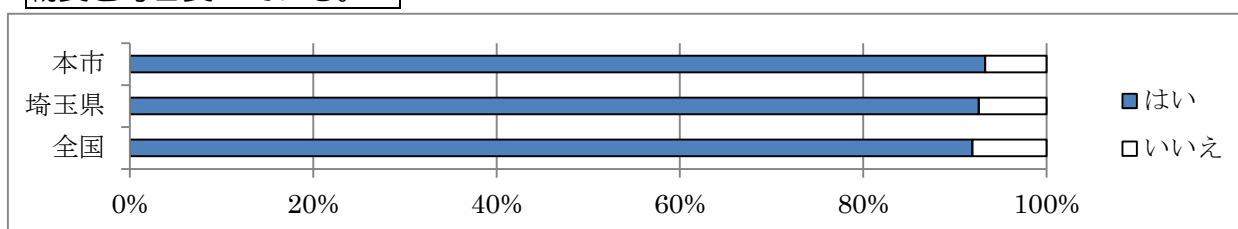
自分には、よいところがあると思いますか。



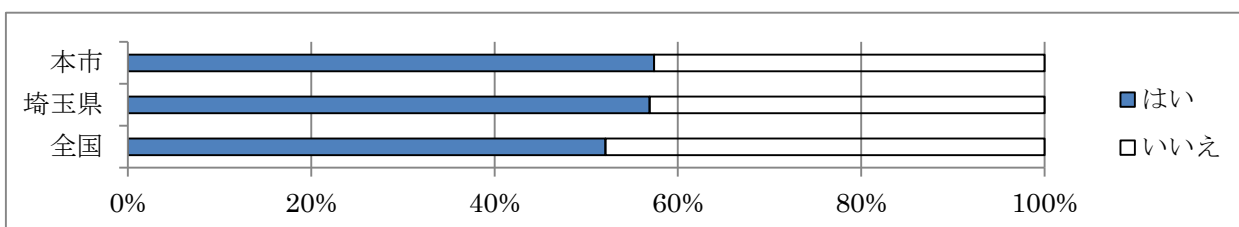
学校のきまり（規則）を守っている。



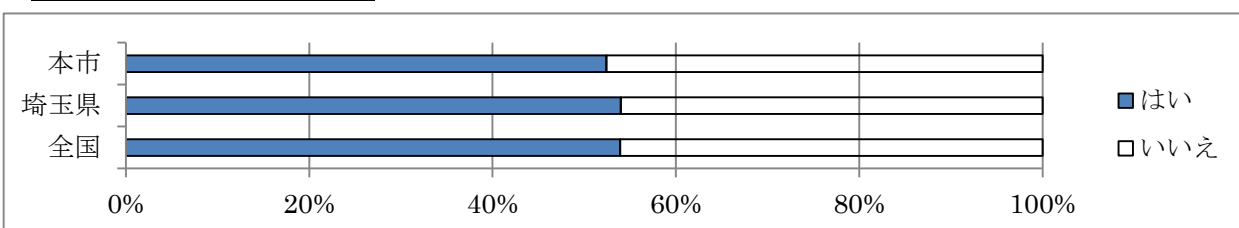
朝食を毎日食べている。



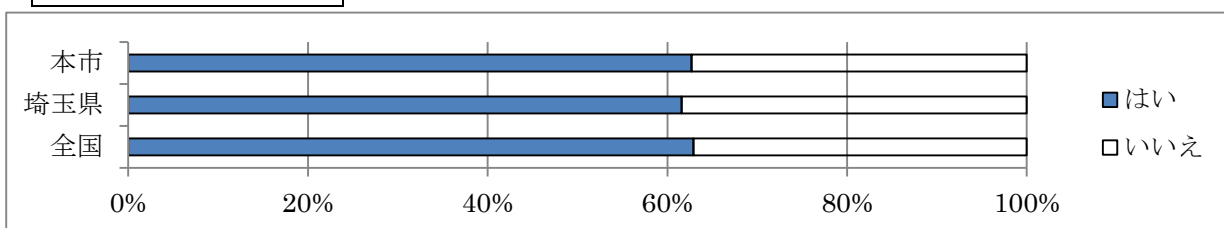
家で、自分で計画を立てて勉強している。



数学の勉強は好きだ。



理科の勉強は好きだ。



＜小学校国語A＞

【領域別の分析】

結果からわかること

○「話すこと・聞くこと」、「読むこと」の2領域は全国平均正答率を下回りました。「書くこと」は全国平均正答率を上回り、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は、全国平均正答率と同じでした。

分析

- ◆「話すこと・聞くこと」では、相手に応じ、自分が伝えたいことについて、事例などを挙げながら筋道を立てて話すことに課題があります。
- ◆「読むこと」では、目的に応じて必要な情報を捉えたり、登場人物の心情について情景描写を基に捉えたりすることに課題があります。
- 「書くこと」では、自分の想像したことを物語に表現するために、文章全体の構成の効果を考えることができています。
- ◆「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では、慣用句の意味の理解や、敬語の使い方や、漢字の書きの問題によっては、正答率が低いことが分かります。

【問題例①】

問題 2

物語を書く時の構成の工夫の説明として適切なものを選択する

- 1 現在と過去を行き来して書き、読者に出来事のつながりを少しずつ分かるようにしている。
- 2 出来事に変化を加えながら繰り返して書き、読者が展開に期待をもって読めるようにしている。
- 3 物語の結末の部分から書き、読者が展開に興味をもって読めるようにしている。
- 4 時間の流れとは反対の順序で書き、読者に出来事のきっかけがわかるようにしている。

正答 2

本市平均正答率 76.0%
(全国平均正答率 73.8%)

【問題例②】

問題 6

慣用句の意味と使い方として適切なものを選択する『心を打たれる』

【意味】ア

- 1 一つのことに集中する。
- 2 遠りよする。
- 3 感動する。
- 4 あれこれと心配する。

【使い方】イ

- 1 オーケストラの演奏をきき、心を打たれる。
- 2 地域の発展のために、長い間、心を打たれる。
- 3 相手に失礼のないように心を打たれる。
- 4 同級生に心を打たれることなく相談する。

答 ア 3 イ 1

本市平均正答率 87.4%
(全国平均正答率 90.4%)

＜分析＞

＜分析＞

誤答	誤答率 (%)	
	本市	全国
1	6.5	7.7
3	12.8	12.4
4	4.4	5.8
無解答	0.3	0.3

◆誤答の多くは、物語の構成における工夫とその効果を捉えることができていないことが考えられます。

誤答	誤答率 (%)	
	本市	全国
ア ³	3.3	2.2
イ ¹ 以外		
ア ³ 以外	2.4	2.2
イ ¹		
上記以外	4.9	4.0
無解答	2.1	1.4

◆『心』を用いた他の慣用句の意味や使い方の違いについて理解できていないことが考えられます。
◎辞典等で自ら調べ、意味を理解することが必要です。

<小学校国語B>

【領域別の分析】

結果からわかること

◆出題のにあった「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の3つの領域で全国平均正答率を下回っています。

分析

- ◆話し合いの参加者として、質問の意図を捉えきれていない児童が約2割います。
- ◆目的に応じて複数の本や文章などを選んで読み取れていない児童が半数近くいます。
- ◆目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして詳しく書けない児童が半数以上います。

【問題例①】

問題 1一

【話し合いの様子の一部】の★木村さんは何のために質問したと考えられるか。最も適切なものを1～4の中から一つ選ぶ。

正答

4 具体的な例がほかにもあるかを確かめるため。

本市平均正答率 80.3%

(全国平均正答率 82.5%)

<分析>

誤答例

1 発表の中で自分が聞きのがしたことをもう一度聞くため。

本市平均正答率 2.5%

全国平均正答率 1.8%

2 相手の考えの中で最も伝えたいことをたずねるため。

本市平均正答率 7.9%

全国平均正答率 6.4%

3 相手の考えとその理由のつながりを明らかにするため。

本市平均正答率 9.0%

全国平均正答率 8.9%

◆話し合いの様子をの叙述から判断せず、自分の考えとの共通点や相違点は何かなど、観点を明確にして相手の話を注意深く聞く必要があります。

◎話し合い活動において、友達の発表や発言と自分の考えとの共通点や相違点、関連している点などを整理して、相手の話を注意深く聞き、わからない点や確かめたい点があった場合は、そのことについて質問することが大切です。

【問題例②】

問題 3二

設問にある文章(伝記)を読み、最も心がひかれた一文と理由を以下の条件を満たして書くもの。

①なぜひかれたのか、理由を書く。

②伝記の文中の言葉を使って書く。

③60字以上、100字以内で書く。

正答

上記3つの条件を満たしている。

本市平均正答率 46.2%

(全国平均正答率 52.3%)

<分析>

誤答例

上記の3つの条件を満たして書くことができない。

本市平均正答率 30.0%

全国平均正答率 21.5%

無解答

本市平均正答率 12.3%

全国平均正答率 11.9%

◆「問われていること」を正確に把握することが課題です。また、自らの書き上げた文章を見直し、条件を満たしているかを確かめる(推敲する)習慣づくりが重要であると考えます。

◎伝記には様々なものがあるので、複数の本を比べて読み、取り上げられた人物の生き方や人生などをより深く知ろうという思いをもって読むことが大切です。

<小学校算数A>

【領域別の分析】

結果から分かること

○「数と計算」「図形」では、県平均正答率を上回っていますが、全国平均正答率は下回っています。

◆「量と測定」「数量関係」では、県平均正答率・全国平均正答率ともに下回っています。

分析

○1に当たる大きさを求める問題場面では、問題場面における数量の関係を理解し、数直線上に表すことに高い定着が見られます。

◆少数のわり算の意味については、理解しているか課題が見られました。

◆無解答率の割合が県や全国と比べて全体的に高くなっています。選択式でも無解答があることから、学習意欲を高める工夫も必要です。

【問題例①】

問題 1

0.4mの重さが60gの針金があります。この針金について、次の問題に答えましょう。

(2) 針金1mの重さが何gになるかを考えます。

針金0.4mの「0.4」、重さ60gの「60」
1mの重さ□gの「□」それぞれの場所はどこか。



正答 「0.4」エ、「60」ア、「□」イ

本市平均正答率 71.1%

(全国平均正答率 66.7%)

本市無解答率 2.5%

(全国無解答率 2.4%)

<分析>

○問題場面を的確に捉え、数量の関係を数直線上に表すことは、全国よりも多くの児童ができています。

◎問題を解決していくためには、数直線上の数量の対応関係や大小関係を的確にとらえることができるようにすることが大切です。

【問題例②】

問題 2

答えが $12 \div 0.8$ の式で求められる問題を、下の **1** から **4** までの中からすべて選んで、その番号を書きましょう。

1 1mの重さが12kgの鉄の棒があります。この鉄の棒0.8mの重さは何kgですか。

2 0.8Lで板を12㎡ぬることができるペンキがあります。このペンキ1Lで板を何㎡ぬることができますか。

3 赤いテープの長さは12cmです。白いテープの長さは、赤いテープの長さの0.8倍です。白いテープの長さは何cmですか。

4 長さが12mのリボンを0.8mずつ切っていくます。0.8mのリボンは何本できますか。

正答 2, 4

本市平均正答率 37.5%

(全国平均正答率 39.9%)

本市無解答率 1.7%

(全国無解答率 1.0%)

<分析>

◆「かける数」や「わる数」が小数である場合の「かけ算」と「わり算」の意味について理解が不十分です。

◎「かける数」や「わる数」が小数であっても、整数である場合の計算の考え方を基にして、理解できるようにすることが大切です。

<小学校算数B>

【領域別の分析】

結果から分かること

◆「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の4領域で全国の平均正答率を下回っています。

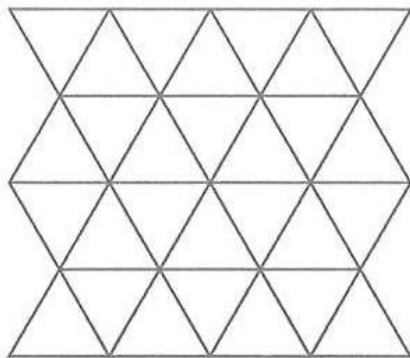
分析

- 図形の構成要素や性質を元に論理的に考察することに定着が見られます。
- ◆複数の観点で示された情報とグラフを関連付けて解釈し、表現することに課題が見られます。
- 設問ごとにみると、概ね全国と傾向は同じですが、平均正答率の低い問題では、県や全国の平均正答率よりも本市の平均正答率が上回っています。

【問題例①】

問題 1 (1)

正三角形4つでできている図形を、うろこ模様の中から見つけます。どのような図形を見つめることができますか。**1**から**4**までの中から1つ選んでその番号を書きましょう。



うろこ模様

- 1** 長方形 **2** 直角三角形
3 平行四辺形 **4** 正六角形

正答 **3**

本市平均正答率 74.3%(全国 71.7%)
 本市無解答率 0.2%(全国 0.3%)

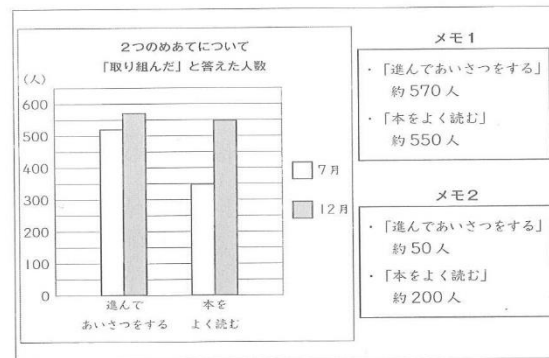
<分析>

- 合同な多角形で敷き詰められた図形の中にほかの敷き詰められる図形を見つめることは、全国と比較して多くの児童ができています。
- ◎合同な多角形で敷き詰められた図形の中に、敷き詰められる他の図形を見出すことは、図形についての見方や感覚を豊かにすることにつながります。図形の構成要素や性質を基に考察することができるようにすることが大切です。

【問題例②】

問題 3 (1)

メモ1とメモ2は、それぞれ、グラフについてどのようなことに着目して書かれていますか。それぞれ着目していることを、言葉や数を使って書きましょう。



メモ1
 ・「進んであいさつをする」
 約570人
 ・「本をよく読む」
 約550人

メモ2
 ・「進んであいさつをする」
 約50人
 ・「本をよく読む」
 約200人

正答例

- 次の①、②の全てを書いている。
- ① メモ1が12月の人数に着目して書かれていることを表す言葉や数。
 - ② メモ2が7月の人数と12月の人数の差に着目して書かれていることを表す言葉や数。
 本市平均正答率 21.5%
 (全国平均正答率 20.7%)
 本市無解答率 18.9%
 (全国無解答率 18.0%)

<分析>

- ◆①のみや②のみを書いている誤答が多く、複数の資料を読み取り、それぞれの言葉や数を用いて記述することに課題があります。
- ◎目的をもち、必要な情報を基に結論をまとめられるよう、数学的に表現する場を設けることが大切です。

＜小学校理科＞

【領域別の分析】

結果から分かること

◆「物質」、「エネルギー」、「生命」、「地球」の4内容全てにおいて全国の平均正答率を下回っています。

分析

○「物質」では、ろ過の適切な操作方法について多くの児童が理解できています。

○「地球」では、堆積作用について、科学的な言葉や概念を多くの児童が理解できています。

◆「エネルギー」では、乾電池のつなぎ方を変えると電流の向きが変わり、モーターの回転が逆になることを適用することに課題が見られます。

◆「生命」では、調べた結果を基に考察する際、問題に対応した視点で分析することや必要な情報を選択することに課題が見られます。

【問題例①】

問題例

2 かつやさんたちは、川のようにすを安全に気をつけながら観察しています。



かつやさんは、自分が立っている岸と向こう岸のようすのちがいに気づき、このちがいが生じる原因を次のように予想しました。



流れる水のはたらきにより、川が曲がっているところの外側では地面がけずられて、内側では流れてきた土や石を積もらせるからだと思うよ。

(1) かつやさんの予想になるような、流れる水の「土や石を積もらせる」はたらきを何といいますか。そのことばを下の1から3までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

1 たい積 2 運ぱん 3 しん食

正答

「1」と解答 本市平均正答率 84.9%

＜分析＞

誤答	2と解答	本市	10.4%
	3と解答	本市	4.4%
	無解答率	本市	0.2%

○本市平均正答率は全国平均正答率と比較して1.3ポイント上回っています。流れる水の地面を削ったり、土や石を運んだり、流されてきた土や石を積もらせたりする働きについての科学的な言葉や概念が理解できています。

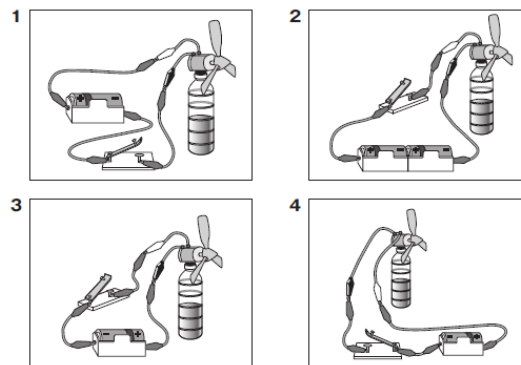
◎生きて働く知識の習得のために、児童が強い課題意識をもって観察や実験等を行い、主体的に問題解決した結果として知識を習得することの重要性について意識した授業を今後も継続していくことが大切です。

【問題例②】

問題例

3 ひろしさんたちは、プロペラを利用したせんぷうきをつくりました。スイッチを入れたところ、プロペラは回りましたが、風はひろしさんのほうにはふきませんでした。

(1) 風がふく方向を逆にするためには、モーターの回転を逆にすればよいと考えたひろしさんは、回路を直すことにしました。どのような回路に直すとよいですか。下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。



正答 「3」と解答 本市平均正答率 57.4%

＜分析＞

誤答

1と解答	本市	12.1%	2と解答	本市	10.4%
4と解答	本市	19.7%	無解答率	本市	0.3%

◆本市平均正答率は全国平均正答率と比較して6.1ポイント下回っています。自然の事物・現象と理科で学んだ電流の働きに関する知識・技能を結びつけて解釈し、実際の回路に当てはめて適用することに課題が見られます。

◎乾電池のつなぎ方を変えたときのモーターの動作の様子の変化を捉える関係的な見方や乾電池の数を増やしたときの電流の大きさとモーターの動作の様子の変化を捉える量的・関係的な見方を働かせることを意識して授業を改善していくことが大切です。

＜小学校質問紙調査＞

【質問例①】

質問

自分には、よいところがあると思いますか。

回答結果

「当てはまらない」「どちらかといえば当てはまらない」と答えた本市児童の割合

21.1%
(全国 15.9%)

＜分析＞

- ◆「当てはまらない」「どちらかといえば当てはまらない」と回答した児童の割合は、全国と比較して5ポイント以上、上回っています。
- ◆「調査問題の解答時間は十分でしたか」の問いに国語や算数の正答率は全国や県の平均を上回っているものの「やや足りなかった」と回答する児童が多いところに自信のなさが伺えます。
- ◎クロス集計の【質問例①】の結果から、様々な取組の中で自信をもたせ、自分のよさに気付くことができる児童が増えれば、さらなる学力向上につながると考えられます。

【質問例②】

質問

毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。

回答結果

「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた本市の児童の割合

85.4%
(全国 77.0%)

＜分析＞

- 「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童の割合は、全国と比較して8ポイント以上、上回っています。
- 「同じくらいの時刻に起きている」と回答した児童の割合や「家庭での学習習慣が身に付いている」等の児童の割合についても、全国の平均値を上回っています。クロス集計の【質問例②】の結果から、規則正しい生活習慣の形成が学力の定着につながっていると考えられます。
- ◎引き続き規則正しい生活ができるよう、家庭と学校が連携して行くことが大切です。そのことが学力の向上の底上げと密接に関係していると考えられます。

クロス集計の結果

【質問例①】

「自分にはよいところがあると思いますか」×「教科に関する調査」(正答率)

選択肢	児童数の割合(全国平均)	国語A(平均正答率)	算数A(平均正答率)
当てはまる	39.1%(41.2%)	72.7%	63.7%
どちらかといえば、当てはまる	39.7%(42.8%)	70.5%	62.6%
どちらかといえば、当てはまらない	14.0%(11.6%)	70.1%	58.4%
当てはまらない	7.1%(4.3%)	57.8%	48.1%

【質問例②】

「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」×「教科に関する調査」(正答率)

選択肢	児童数の割合(全国平均)	国語A(平均正答率)	算数A(平均正答率)
当てはまる	53.2%(41.4%)	73.3%	64.2%
どちらかといえば、当てはまる	32.2%(35.6%)	68.7%	59.8%
どちらかといえば、当てはまらない	11.0%(17.2%)	67.0%	58.1%
当てはまらない	3.6%(5.7%)	53.6%	44.1%

＜分析＞

学力との相関関係はクロス集計の結果からも見て取れます。自らの良さに気付かせるなど、自己肯定感を高めるとともに、家庭と学校が連携を深め、規則正しい生活や学習の習慣を身に付けさせることが学力の向上への第一歩であると考えられます。

＜中学校国語A＞

【領域別の分析】

結果からわかること

○「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」四つ全ての領域で、全国及び県の平均正答率を上回っています。

分析

- 「書こうとする事柄のまとまりや順序を考えて文章を構成する」ことや、「文脈の中における語句の意味を理解する」ことについては、高い定着が見られます。
- ◆「文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える」ことや、「話合いの話題や方向を考えて的確に話す」ことについては、やや課題が見られます。
- ◆漢字の読み書きについて、「文脈に即して正しく読むこと」は非常に高い定着が見られますが、「文脈に即して正しく書くこと」は語句によって差が見られました。

【問題例①】

問題 1 一

【村井さんの感想】と【清水さんの感想】に対して先生が述べた言葉として最も適切なものを選択するもの。

正答

【村井さんの感想】 4
【清水さんの感想】 5 両方正解で○
本市平均正答率 88.0%

＜分析＞

- 「話の論理的な構成や展開などに注意して聞くこと」ができていないかをみる問題です。正答率が高かったことから、「村井さん」の発表は、英語で道順を尋ねられた山田さんの経験と自身の経験を比較し述べられていることに気付くことができたこと、「清水さん」の発表は、山田さんのスピーチが、結論→理由→結論という双括型の構成となっていることを捉え、効果的な話の組み立て方について述べられていることを、多くの生徒が理解できていたことがわかります。スピーチで話題としている事柄や話し手の意図に注意して、内容を的確に捉えられているようです。
- ◎授業において、発表形式の学習を行うことがあります。説明原稿を作成する際には、話題(材料)の選び方や話の組み立て方について考えたり、工夫をしたりすることが大切です。発表について、生徒が相互に評価し合ったり、感想を述べ合ったりすることで、話の論理的な構成や展開などに注意して聞く力が身に付きます。また、それらを聞いて質問や助言をし合うなど、自分の考えと比較する力を養うことも重要です。

【問題例②】

問題 2 二

【図書館だよりの下書き】の空欄部Aに、他の図書委員から出された「意見1」と「意見2」の両方の内容を一文で、30字以内で書くもの。

正答例

(なお、市立図書館では、)受付で申し込めばパソコンを利用できますが、数に限りがあります。(30字)
本市平均正答率 65.9%

＜分析＞

- ◆「伝えたい事実や事柄が相手に分かりやすく伝わるように書くこと」ができるかをみる問題です。正答の条件として、①「意見1」(パソコンの利用は受付で申し込む)と、「意見2」(パソコンは数に限りがある)の両方の内容が取り入れられていること、②「なお、市立図書館では、」の書き出しに適切に続けて書かれていること、③三十字以内の一文で書かれていることの、3つを満たしていることが求められています。誤答として多かったのは、両方の意見の内容を取り入れずに解答したものでした。出題の意図を理解し、正答となる条件を意識して解答することに課題が見られます。
- ◎伝えたい事柄が相手に分かりやすく伝わるように書くためには、重要な語句を適切に使い、要点が押さえられているかを意識することが大切です。字数制限がある出題には、接続語等を効果的に使い、複数の内容を組み合わせる表現ができるよう、日頃から書く習慣を身に付けておくことが必要です。

< 中学校国語B >

【領域別の分析】

結果からわかること

○「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」四つ全ての領域で、平均正答率が全国及び県の平均を上回りました。

分析

- 「話の展開に注意して聞き、必要に応じて質問する」ことや、「場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する」ことなどは、高い定着が見られます。
- ◆「文章とグラフ（資料）との関係を考えながら内容を捉える」ことや、「目的に応じて文章を読み、内容を整理して書く」ことにはやや課題が見られました。

【問題例①】

問題 1 三

文章を読み、「天地無用」という言葉を誤った意味で解釈してしまう人がいる理由について書く問題。

正答例

『無用』という言葉に『してはならないこと』という意味での使い方があることが分かりにくいから。また、『天地無用』は『逆にすること』に当たる内容が省略された言い方になっていることが字面だけを見てもわからないから。

本市平均正答率 14.9%

<分析>

- ◆目的に応じて文章を読み、内容を整理して書くことができるかをみる問題です。宅配便で「天地無用」と表示された箱を逆さまにしてよいかという調査で約3割の人が「上下を気にしないでよい」と誤解して回答した結果について考察した文章です。正答の条件として、①「無用」という言葉に「してはならないこと」という意味での使い方が分かりにくくなっていること、②「天地無用」には「逆にする」に当たる意味が省略されていることの2つを満たしていることが求められます。正答率が低かったことから、複数示された内容を整理し、まとめる力に課題が見られました。

◎説明的文章を読む際、中心的な部分と付加的な部分とを読み分けて内容を整理し、要点をまとめる力が求められます。授業においては、文章を要約する学習等で、キーワード（重要語句）やキーセンテンス（中心となる文）を押さえて記述することによりこうした力を養うことが大切です。

【問題例②】

問題 2 一

南さんと大野さんの質問の意図として最も適切なものを選択する問題。

正答 2

本市平均正答率 88.8%

<分析>

- 「人とコミュニケーションをとるロボットに期待すること」について述べる発表者に、2人の生徒が質問した意図を捉えることができたかをみる問題です。正答率が高かったことから、多くの生徒が、質問に至る経緯を正しく理解できていたものと捉えられます。南さんが事前に「どんな会話をするのか聞きたい」と思っていたが、発表内容にはそれが含まれていなかったために質問したこと、大野さんは、「一人暮らしのおばあさんの生活に役立つ」という発表を聞きながら生じた疑問について質問したことが、しっかりと読み取れていたものと分析します。誤答した生徒は、「説明の誤りや矛盾を指摘するため」や、「発表の要点を確かめるため」に質問したのではないということが理解できていなかったものと考えられます。
- ◎国語科で育成される言語能力を活用し、「総合的な学習の時間」等において自身が調べたことを発表する学習が行われます。こうした場面において、話し手は、相手に分かりやすく伝えるために表現を工夫したり、相手の反応を踏まえながら話したりすることを意識することが必要です。また、聞き手は、発表者の話を聞きながら自分の考えを整理するために、必要に応じて質問をして内容を確かめたり、不足している情報を聞き出したりすることが大切です。

＜中学校数学A＞

【領域別の分析】

結果から分かること

「数と式」の領域では、1ポイント以上上回りました。「図形」「資料の活用」の2領域では0.5ポイント程度上回りました。

◆「関数」の領域では、全国平均正答率を0.8ポイント下回りました。

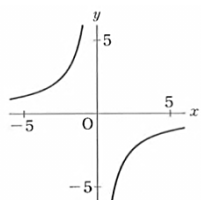
分析

◆設問ごとにみると、概ね全国と傾向は同じですが、本市正答率が50%を下回った問題が3問、無解答率が10%を超えた問題が3問ありました。等式の性質を利用して式を変形させることや、関数（比例に関するもの）においてグラフや表を関連づけて解答することに課題が見られました。

【問題例①】

問題 9 (3)

反比例のグラフをもとに、 x と y の関係を表した表をア～エより選びなさい。



正答 ウ

本市平均正答率

48.7%

ア

x	...	-3	-2	-1	0	1	2	3	...
y	...	-2	-3	-6	0	6	3	2	...

イ

x	...	-3	-2	-1	0	1	2	3	...
y	...	-2	-4	-6	0	6	4	2	...

ウ

x	...	-3	-2	-1	0	1	2	3	...
y	...	2	3	6	0	-6	-3	-2	...

エ

x	...	-3	-2	-1	0	1	2	3	...
y	...	2	4	6	0	-6	-4	-2	...

＜分析＞

誤答例

ア	本市	8.2%	(全国)	9.5%
イ	本市	11.4%	(全国)	11.8%
エ	本市	30.3%	(全国)	24.5%
	本市無解答率	1.5%	(全国)	1.4%

◆本市平均正答率は、全国平均正答率に比べて4.1ポイント下回り、反比例の理解に課題が見られました。

◆誤答アでは、反比例については理解しているが、グラフと表を関連づけることが十分でないと考えられます。

誤答イ、エでは、 $xy = a$ (一定) という反比例の性質の理解不足や比例の性質との混同が原因と考えられます。

◎ x の値と y の値の積は、常に一定になっていることに気づけるように、グラフと表の数値を関連づけ、問題の意味を考えながら学習していくことが必要です。

【問題例②】

問題 14 (2)

下の記録は、ある中学校の生徒9人の反復横跳びの結果を回数の少ない方から順に並べたものです。

【記録】 (単位：回)

37 41 43 45 47 50 50 50 51

反復横跳びの記録の中央値を求めなさい。

正答 47 本市平均正答率 79.1%

(全国平均正答率 74.0%)

＜分析＞

誤答例

44 本市 1.8% (全国) 3.0%

45 本市 8.2% (全国) 9.5%

46 本市 4.0% (全国) 4.8%

50 本市 0.8% (全国) 1.4%

本市無解答率 3.5% (全国) 4.6%

○本市平均正答率は、全国に比べ5.1ポイント上回りました。また、無解答率も全国と比べると1.1ポイント低くなっています。

◆誤答では、中央値の捉え方に課題が見られました。

◆中央値を最大値と最小値の平均値(44)として捉えたり、50回を記録した生徒が3人いたが、1つにまとめて考え、中央値(45)として捉えたり、全体の平均値(46)と捉えたりしている解答が見られました。

◎「平均」については、小学校5年生で学習しており、「中央値」については、中学校1年生での学習です。それぞれがどのような意味をもつものかを理解し、目的に応じて与えられた資料を活用できるよう学習することが必要です。

＜中学校数学B＞

【領域別の分析】

結果から分かること

○すべての領域で全国平均正答率を上回りました。全体では、全国平均正答率を 2.1 ポイント上回り、その中でも「関数」の領域では、4.3 ポイント上回りました。

分析

◆全国と比較するとすべての領域で平均正答率を上回りましたが、設問ごとにみると、本市平均正答率が 30%を下回った問題が 3 問、無解答率が 20%を超えた問題が 3 問ありました。特に、「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること」、「与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理すること」について課題があり、得た知識や技能を活用する力を身に付ける必要があります。

【問題例①】

問題 3

太一さんは、自分の地域を走る電車の写真を撮影し、紹介しようと考えています。そこでダイヤグラムを参考にして、撮影計画を立てることにしました。(2) 太一さんは、A 駅から B 駅間の列車を 13 時台に撮影する予定です。そこで、列車の運行の様子について調べました。そしてダイヤグラムを参考にして、13 時から x 分経過したときの、それぞれの列車の A 駅から

の道のりを y km

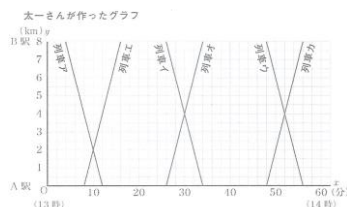
として、 x と y

の関係を直線

のグラフに表

しました。

太一さんは、すれ違う列車の写真を撮りたいと考え、太一さんが作ったグラフをもとに列車のすれ違いが起こるおおよその地点を調べています。



列車のすれ違いは、A 駅からの道のりが

① km の地点で 1 回、A 駅からの道のり

が ② km の地点で 2 回起こる。

太一さんが作ったグラフをもとに上の ①、

② に当てはまる数をそれぞれ求めなさい。

正答

① 2、② 4

本市平均正答率 85.3%

(全国平均正答率 77.7%)

＜分析＞

本市無解答率 4.5% (全国) 6.9%

○本市平均正答率は全国を 7.6 ポイント上回り、無解答率は 2.4 ポイント下回りました。このことは、グラフから列車のすれ違いが起きている地点は直線の接点であることを読み取ることができた生徒が全国平均正答率よりも多かったことを表しています。

◎中学校 2 年生で学習する一次関数において、二つの数量の関数関係を見出し表現し、考察する能力を伸ばしていくことが大切であると考えられます。

【問題例②】

問題 5

里菜さんは、バスツアーを利用して旅行することにしました。そこで、S 社と T 社のパンフレットから、次のような表にまとめました。

里菜さんが作った表

	S 社	T 社
プラン名	史跡巡りプラン	史跡巡りプラン
通常料金	1 人 3500 円	1 人 3200 円
団体料金	1 人 2940 円	通常料金の 10% 引き
団体料金の利用可能人数	8 人以上	10 人以上

(1) 里菜さんが作った表から、S 社の場合、団体料金は通常料金の 560 円引きであることがわかります。この 560 円は通常料金の何%にあたるかを求める式を書きなさい。ただし、実際に何%にあたるかを求める必要はありません。

正答 $\frac{560}{3500} \times 100$

本市平均正答率 15.7%

(全国平均正答率 16.0%)

＜分析＞

本市無解答率 21.4%

(全国無解答率 24.1%)

◆本市平均正答率は全国平均正答率を 0.3 ポイント下回りました。数学 B の中で唯一全国よりも平均正答率が下回った設問でした。また、全国と同様に正答率よりも無解答率が上回り、およそ 1/5 以上の生徒が無解答でした。このことから、百分率の計算方法が定着していない、また、表から必要な情報を選び取ることができない生徒が多かったと考えられます。

◎百分率については、小学校 5 年生で学習しています。通常料金の 3500 円が基準量、値引きの 560 円が比較量となります。百分率 = 比較量 ÷ 基準量 × 100 の理解を定着させる必要があると考えられます。

＜中学校理科＞

【領域別の分析】

結果から分かること

- 「物理的領域」、「科学的領域」、「生物的領域」、「地学的領域」の4領域全てにおいて平均正答率が60%を超え、全国の平均正答率を上回っています。
- 「物理的領域」の平均正答率は78.8%で、全国の平均正答率を4.4ポイント上回っています。

分析

- 基礎的・基本的な知識や技能は多くの生徒に身に付いています。
- 習得した知識・技能を活用して、観察・実験の結果を表したグラフや、観察・実験の結果を言葉で記録した表を分析して解釈することができています。

【問題例①】

問題例

1 演説などの際に使うことがあるテレプロンプターについて、理科の授業で科学的に探究しました。



先生：光の反射を利用したテレプロンプターは、話し手からは文字が見えて、聞き手からは文字が見えない機器です。
タブレット型のコンピュータと半透明の板を使って、テレプロンプターのモデルをつくり、光の進み方について学習していきます。

生徒：図1のようにすると、半透明の板に「あ」を表示することができました。

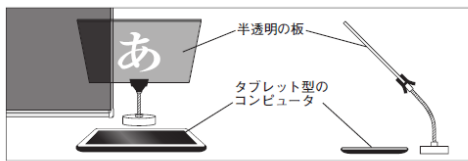


図1

(1) 図1のように「あ」を半透明な板に表示したとき、タブレット型のコンピュータの画面として適切なものを、下のアからエまでのの中から1つ選びなさい。



正答

「イ」と解答 本市平均正答率 68.7%

＜分析＞

誤答

- アと解答 本市 6.4% ウと解答 本市 10.7%
- エと解答 本市 14.0% 無解答率 本市 0.2%
- 本市平均正答率は全国平均正答率と比較して7.0ポイント上回っています。ウ、エと回答した生徒は、日常生活における平面鏡に映った像の見え方や、光の反射の幾何学的な規則性についての知識・技能を活用することに課題があると考えられます。
- ◎身近な物理現象から問題を見出して課題を設定し、見通しをもって観察・実験を行い、科学的に探究する能力や態度を育てる授業をこれからも継続していくことが大切です。

【問題例①】

問題例

2 春子さんと航太さんは、理科通信の内容に興味をもち、科学的に探究してレポートにまとめました。(1)から(4)までの各問いに答えなさい。

新たな課題

蛍光灯の下よりもっと明るい場所では、アサリが出す砂の質量は少なくなるのだろうか。

新たな実験

蛍光灯の下でアサリが出す砂の質量と、明るい窓ぎわの光の下でアサリが出す砂の質量を比較する(図2)。

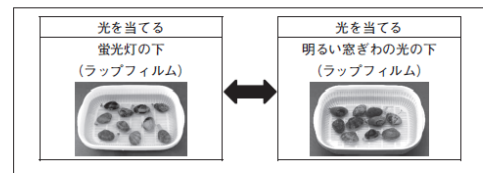


図2

(4) 春子さんと航太さんは、【新たな実験】で、もっと明るい場所に置くことによって明るさ以外にも変わってしまう条件があると考えました。変わってしまう条件として考えられるものを1つ書きなさい。

正答

「温度」に関して記述

本市平均正答率

66.6%

＜分析＞

誤答

- 「光」に関して記述 本市 10.2%
- 「砂」に関して記述 本市 3.5%
- 無解答率 本市 8.2%
- 本市平均正答率は全国平均正答率と比較して8.9ポイント上回っています。
- 無解答率は、全国の平均より1.3ポイント少なく、9割以上の生徒が何らかの記述をしていることが分かります。
- ◎日ごろの授業において、条件制御の知識・技能を活用して、要因が複数あると考えられる自然の事物・現象の実験を検討して改善し、1つの要因を変えるとその他にも変わる可能性のある要因を指摘するような指導が充実している結果だと考えられます。

＜中学校質問紙調査＞

【質問例①】

質問

1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか。

回答結果

「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた本市生徒の割合

67.2%

＜分析＞

- 「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒の割合は、全国の平均を13.4ポイント上回っています。
- また、「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」、の質問についても「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒の割合は、全国の平均を6.3ポイント上回っています。
- ◎新しい学習指導要領が目指す、「主体的・対話的で深い学び」に向けて授業改善が進んでいます。これまでの取組を推進するとともに、深い学びに着目した指導方法の工夫改善を推進していく必要があると考えます。

【質問例②】

質問

理科の授業では、理科室で観察や実験をどのくらい行いましたか。

回答結果

「週1回以上」「月1回以上」と答えた本市生徒の割合

96.0%

＜分析＞

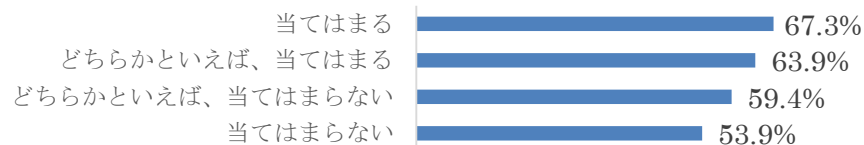
- 「週1回以上」「月1回以上」と答えた生徒の割合は、全国の平均を8.9ポイント上回っています。また、「週1回以上」と答えた生徒の割合は、全国の平均を29.4ポイント上回っています。
- また、「理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか」、の質問についても、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒の割合は全国の平均を15.2ポイント上回っています。さらに、「当てはまる」と答えた生徒の割合は、全国の平均を11.6ポイント上回っています。
- ◎観察や実験を積極的に行うことで、生徒の興味や関心が喚起され、主体的に学習に取り組む態度の醸成につながるものと考えられます。主体的な学びが対話的で深い学びにつながります。

クロス集計の結果

「1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか」×「教科に関する調査」（正答率）

選択肢（生徒数の割合）	国語B（平均正答率）
当てはまる (23.7%)	67.3%
どちらかといえば、当てはまる (43.5%)	63.9%
どちらかといえば、当てはまらない (22.4%)	59.4%
当てはまらない (10.4%)	53.9%

国語Bの平均正答率



グラフのように、「当てはまる」と答えた生徒ほど、国語B（主に活用を問う問題）について、正答率が高いことがわかる。

<埼玉県学力・学習状況調査の概要>



※「平成30年度埼玉県学力・学習状況調査（調査の概要）」（埼玉県教育委員会）より抜粋

1 調査の目的

本県の児童生徒の学力や学習に関する事項等を把握することで、教育施策や指導の工夫改善を図り、児童生徒一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進する。

参考：[【埼玉県学力・学習状況調査】埼玉県教育委員会ホームページ（新規ウィンドウを開きます）](https://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyou/20150605.html)

<https://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyou/20150605.html>

2 調査対象

小学校第4・5・6学年、中学校第1・2・3学年 原則として全児童生徒

3 調査実施日

平成30年4月12日（木）

4 調査の内容

（1）教科に関する調査

小学校第4学年から第6学年まで 国語、算数

中学校第1学年 国語、数学

中学校第2学年及び第3学年 国語、数学、英語

※ 学習指導要領に示された内容のうち調査する各学年の前の学年までの内容

（2）質問紙調査

学習意欲、学習方法及び生活習慣等に関する事項

桶川市の調査結果の概況

＜小学校＞ は県平均正答率を上回ったもの

国語	第4学年			第5学年			第6学年		
	設問数	本市平均正答率	県の平均正答率	設問数	本市平均正答率	県の平均正答率	設問数	本市平均正答率	県の平均正答率
教科の領域等									
話すこと・聞くこと・書くこと	6	53.3%	52.7%	4	37.1%	39.8%	4	60.5%	62.8%
読むこと	4	62.6%	62.8%	9	49.2%	53.2%	9	67.2%	66.8%
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	16	65.5%	65.3%	17	63.9%	66.0%	17	65.2%	64.4%
全 体	26	62.2%	62.0%	30	55.9%	58.6%	30	65.2%	64.9%
※学力の伸びた児童の割合					↑↑↑	↑↑↑↑		↑↑↑	↑↑↑

算数	第4学年			第5学年			第6学年		
	設問数	本市平均正答率	県の平均正答率	設問数	本市平均正答率	県の平均正答率	設問数	本市平均正答率	県の平均正答率
教科の領域等									
数と計算	12	71.2%	69.6%	12	61.9%	61.5%	11	62.3%	61.2%
量と測定	6	54.0%	53.7%	7	49.3%	51.6%	7	47.1%	46.0%
図形	6	51.5%	49.6%	6	65.7%	67.5%	7	66.9%	66.5%
数量関係	6	67.3%	68.2%	7	43.9%	44.8%	7	41.0%	43.6%
全 体	30	63.0%	62.1%	32	55.9%	56.8%	32	55.3%	55.2%
※学力の伸びた児童の割合					↑↑↑↑	↑↑↑↑		↑↑↑	↑↑↑

※学力の伸びた児童の割合…前年度から学力が伸びた児童の全体に対する割合

↑↑↑↑↑=80%以上、↑↑↑↑=70%以上80%未満、↑↑↑=60%以上70%未満、↑↑=50%以上60%未満、↑=50%未満

<児童への質問紙調査> (主な結果:「規律ある態度」に関する項目の結果)

※ 達成率:「できる」「よくできる」「だいたいできる」の合計)と回答した割合

上段:本市の達成率、下段:県の達成率、 は80%以上 (%)

内容	項目	第4学年	第5学年	第6学年
○けじめある生活ができる	1 時刻を守る			
	① 登校時刻	93.3	94.5	96.1
		91.8	94.1	95.1
	② 授業の開始時刻	93.8	93.5	95.8
		92.7	94.1	96.3
	2 身の回りの整理整頓をする			
③ 靴そろえ	83.9	86.9	89.9	
	83.7	86.9	89.4	
④ 整理整頓	84.8	83.5	85.3	
	82.8	83.8	84.8	
○礼儀正しく人と接することができる	3 進んであいさつや返事をする			
	⑤ あいさつ	80.9	82.0	86.4
		80.4	81.1	82.8
	⑥ 返事	88.5	89.0	93.1
		89.0	89.4	89.7
	4 ていねいな言葉づかいを身に付ける			
⑦ ていねいな言葉づかい	86.7	87.4	93.9	
	86.2	86.6	91.8	
⑧ やさしい言葉づかい	85.8	85.6	89.7	
	83.5	84.4	86.6	
○約束やきまりを守ることができる	5 学習のきまりを守る			
	⑨ 学習準備	82.3	92.2	91.3
		79.2	85.7	88.1
	⑩ 話を聞き発表する	80.7	79.6	79.7
		79.3	76.8	76.2
	6 生活のきまりを守る			
⑪ 集団の場での態度	88.8	85.7	90.2	
	84.5	85.4	87.8	
⑫ 掃除・美化活動	92.7	90.6	91.4	
	90.2	88.5	88.5	

<中学校>

は県平均正答率を上回ったもの

国語	第1学年			第2学年			第3学年		
	設問数	本市平均正答率	県の平均正答率	設問数	本市平均正答率	県の平均正答率	設問数	本市平均正答率	県の平均正答率
話すこと・聞くこと・書くこと	4	71.9%	69.6%	4	67.0%	67.9%	4	52.1%	51.4%
読むこと	9	51.5%	49.8%	9	54.3%	51.1%	9	77.4%	73.5%
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	17	56.0%	54.8%	17	55.2%	55.1%	17	61.8%	57.8%
全 体	30	56.8%	55.2%	30	56.5%	55.6%	30	65.2%	61.7%
※学力の伸びた生徒の割合		↑↑↑	↑↑↑		↑↑	↑↑		↑↑↑	↑↑↑

数学 (内容は算数)	第1学年		
教科の領域等	設問数	本市平均正答率	県の平均正答率
数と計算	11	54.9%	54.5%
量と測定	7	66.5%	65.9%
図形	7	53.8%	54.4%
数量関係	7	59.6%	59.6%
全 体	32	58.2%	58.1%
※学力の伸びた生徒の割合		↑↑↑	↑↑↑↑

※学力の伸びた生徒の割合…
前年度から学力が伸びた生徒の全体に対する割合

↑↑↑↑↑=80%以上、↑↑↑↑=70%以上80%未満、
↑↑↑=60%以上70%未満、↑↑=50%以上60%未満、
↑=50%未満

数学	第2学年			第3学年		
教科の領域等	設問数	本市平均正答率	県の平均正答率	設問数	本市平均正答率	県の平均正答率
数と式	14	53.0%	52.9%	12	66.4%	62.0%
図形	6	40.3%	38.5%	7	55.9%	55.1%
関数	6	63.1%	61.5%	7	61.8%	59.7%
資料の活用	6	50.3%	48.5%	6	54.8%	57.4%
全 体	32	52.0%	51.0%	32	60.9%	59.1%
※学力の伸びた生徒の割合		↑↑↑	↑↑↑		↑↑↑	↑↑↑

英語	第2学年			第3学年		
教科の領域等	設問数	本市平均正答率	県の平均正答率	設問数	本市平均正答率	県の平均正答率
聞くこと	10	77.1%	72.9%	10	63.8%	59.9%
話すこと	-	-	-	-	-	-
読むこと	20	65.8%	62.3%	22	64.2%	60.1%
書くこと	4	65.8%	61.8%	4	52.6%	46.4%
全 体	34	69.1%	65.4%	36	62.8%	58.5%
※学力の伸びた生徒の割合					↑↑↑↑↑	↑↑↑↑↑

＜生徒への質問紙調査＞（主な結果：「規律ある態度」に関する項目の結果）

※ 達成率：「できる」「よくできる」「だいたいできる」の合計）と回答した割合

上段：本市の達成率、下段：県の達成率、 は80%以上 (％)

内容	項目	第1学年	第2学年	第3学年	
○けじめある生活ができる	1 時刻を守る				
	① 登校時刻	98.7	98.6	97.3	
		98.7	97.3	96.9	
	② 授業開始時刻	98.3	99.1	98.0	
		98.3	97.5	97.3	
	2 身の回りの整理整頓をする				
	③ 靴そろえ	93.2	92.9	92.0	
		92.5	91.6	92.5	
④ 整理整頓	86.9	85.1	80.6		
	86.3	85.6	84.5		
○礼儀正しく人と接することができる	3 進んであいさつや返事をする				
	⑤ あいさつ	86.0	84.7	83.4	
		84.0	84.4	84.6	
	⑥ 返事	92.7	90.1	89.3	
		89.4	88.3	88.4	
	4 ていねいな言葉づかいを身に付ける				
	⑦ ていねいな言葉づかい	94.2	90.8	94.3	
		92.6	90.7	91.9	
⑧ やさしい言葉づかい	92.5	88.9	91.0		
	89.7	86.5	87.9		
○約束やきまりを守ることができる	5 学習のきまりを守る				
	⑨ 学習準備	96.5	91.0	93.7	
		91.3	88.3	90.0	
	⑩ 話を聞き発表する	79.9	70.5	74.7	
		74.8	70.8	70.8	
	6 生活のきまりを守る				
	⑪ 集団の場での態度	94.9	95.5	95.2	
		93.9	94.3	94.3	
⑫ 掃除・美化活動	89.4	86.8	85.5		
	85.7	85.2	85.0		

桶川市の学力向上の取組

教育委員会では、学力向上を教育行政の最重要課題として位置付けており、各学校におけるより一層の学習指導の改善・充実に向け、支援を行っています。「確かな学力」を身に付けさせるために、「基礎的・基本的な知識及び技能の習得」、「思考力・判断力・表現力等の育成」、「主体的に学習に取り組む態度の涵養」を重点に取り組んでいるところです。

また、各学校においては、児童・生徒の現状を全国や埼玉県の学力・学習状況調査の結果や各種調査を分析して、その結果に至った要因や課題を明らかにし、具体的な学力向上プランを作成し、授業改善等に取り組むことを確認しています。教育委員会としましては、市内全小・中学校への学校訪問を行い、学校課題研究の充実や学力向上に向けた授業改善等についての指導・助言を通して、各学校の取組の推進を支援してまいります。

1 学校課題研究（校内研修）の充実

- (1) 研究主題に迫るための授業研究会の実施
- (2) 今年度の研究発表校

学校名	研究領域	研究主題等	研究発表会
桶川東中学校	学習指導	「基礎・基本の確実な定着を目指した学習指導の工夫」	平成 30 年 10 月 5 日 (金)
桶川東小学校	外国語 活動	「外国語に進んで慣れ親しみ、 コミュニケーションを楽しむ けやきっ子の育成」	平成 30 年 10 月 25 日 (木)
川田谷小学校	体育科	「意欲的に運動に取り組み、 心身を磨き合う児童の育成」	平成 30 年 11 月 22 日 (木)
桶川中学校	生徒指導	「自己肯定感を高める生き方指導」	平成 30 年 11 月 27 日 (火)
桶川小学校	図画 工作科	「ともに認め合い 生き生きと活動する 児童の育成」	平成 30 年 11 月 30 日 (金)

2 具体的な指導方法の工夫・改善

- (1) 主体的な学びの実現のために
 - 意欲を高めることにつながる授業導入の工夫と課題に対応したまとめを行う。
 - 学習課題（ねらい）を明示し、見通しをもたせ、追究方法や手順等の選択・決定を支援する。
- (2) 対話的な学びの実現のために
 - 活動に応じた学習形態を設定する。
 - 意見を交換したり、発表をしたり、聞いたりしながら考えをまとめていく授業を展開する。
- (3) 深い学びの実現のために
 - 考えを可視化させる思考ツールを積極的に活用する。
 - 予想の場や試行錯誤する場の設定を行う。
 - 実験や体験活動を充実させる。

3 個に応じた指導の充実

- (1) T T や少人数指導などきめ細やかな指導の充実
 - * T T (ティーム・ティーチング) … 1 教室に複数の教師が入り、分担・協力して指導する方法
 - * 少人数指導 … 学級よりも少人数の集団で授業を行う方法
- (2) 各種補助員・支援員等の配置

個に応じた指導を充実させるため、各校に特別支援指導補助員・学校図書館教育補助員、教育指導補助員、各小学校に小 1 プロブレム学級支援員・理科支援員、必要に応じて日本語指導員を配置する。

保護者の皆様へ

今回の調査では、家庭学習の計画性や家庭での予習・復習の実施に関して、桶川市の児童・生徒共に全国平均を上回っています。しかし、取組時間によって、学力の伸びは違います。平日 2 時間以上 3 時間未満「学校の授業時間以外に勉強している」児童・生徒の伸びが一番大きいことが分かります。ある程度、まとまった時間の集中した家庭学習は学力につながっていると推測できます。

また、「家の人と学校での出来事について話をしますか」の設問においては、「している、どちらかといえばしている」と回答している児童・生徒の方が、「していない、どちらかといえばしていない」と回答している児童生徒と比べて平均正答率が高い傾向が見られました。保護者の皆様には、学校での教育活動にご理解、ご協力をいただきながら、家庭学習の時間の確保を図るとともに、お子様と過ごす時間を大切にさせていただきますようより一層のご協力をお願いいたします。

平成30年度 桶川市学校教育プラン

生きる力を育み 未来へはばたく 桶川の教育



桶川教育の3本柱



確かな学力

◇「基礎的・基本的な知識及び技能の習得」「思考力、判断力、表現力等の育成」「主体的に学習に取り組む態度の涵養」を目指す学校教育の充実

- ・ 主体的・対話的で深い学びを目指した授業実践の推進
- ・ 時代の変化に対応する教育の推進（英語教育、ICT教育の推進）
- ・ 小・中学校9年間を見通した一貫性のある

豊かな心

◇思いやりの心や規範意識などの豊かな人間性や社会性を育む教育の充実

- ・ 「特別の教科 道徳」における指導と評価の充実
- ・ 学校教育における人権教育の推進
- ・ 心豊かな児童生徒の育成を目指す生徒指導の推進
- ・ いじめ・不登校の未然防止の推進
- ・ 共生社会を支える特別支援教育の推進

健やかな体

◇自ら進んで運動に親しむ資質・能力の育成及び、心身を鍛える体育授業、体育的活動の充実

- ・ 体力向上を目指した学校体育の充実
- ・ 外部の専門的な指導方法を取り入れた体育授業の推進
- ・ 食育を通じた健康教育の推進
- ・ 家庭・地域と連携した安全教育・安全管理の推進

桶川市教育委員会 桶川市教育研究会委嘱研究「市内小・中学校」

<u>今年度本発表校</u>		
桶川小学校		平成30年11月30日
川田谷小学校		平成30年11月22日
桶川東小学校		平成30年10月25日
桶川中学校		平成30年11月27日
桶川東中学校		平成30年10月 5日

平成30・31年度 埼玉県教育委員会委嘱
「博物館・美術館等を活用した子供パワーアップ事業」

桶川小学校 加納中学校

桶川市教育委員会

平成30年度 桶川市教育委員会 学校教育 指導の重点・努力点

桶川市教育行政基本方針の基本理念 「生きる力を育み未来へはばたく桶川の教育」

- 基本目標**
- I 確かな学力の育成と質の高い教育環境の充実
 - II 豊かな心の育成と人権意識の高揚
 - III 健やかな体の育成
 - IV 家庭・地域の教育力の向上
 - V 生涯にわたる学びとスポーツの支援
 - VI 伝統文化・芸術の振興と文化財の保存・活用の推進

<p>学校経営</p> <p>○学校教育目標の実現を目指した全教職員が相互に協力する教育活動を積極的に展開する</p> <p>小・中学校9年間を見通した一貫性のある学校教育の推進(I)</p> <p>学習環境の整備・充実(I)</p> <p>教職員の資質能力の向上(I)</p> <p>学校応援団の充実(IV)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校教育目標の具現化 ○ 地域や各学校、児童生徒の実態に即した教育課題の明示とそれを解決するための創意工夫のある教育課程の編成と実施、評価 ○ 夏季休業日の短縮に伴う教育活動の工夫 ○ 研修の充実と指導力の向上 ○ 家庭や地域社会との積極的な連携、異校種間を含めた学校間の連携・協力
<p>学級経営</p> <p>・児童生徒理解を深め、信頼関係や好ましい人間関係を育てるとともに、魅力ある学級づくりに努める</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校の教育目標の実現を目指し、創意工夫を生かした学級経営の推進 ○ 児童生徒一人一人が様々な活動に自主的、実践的に取り組む学級経営の推進 ○ 児童生徒の発達を踏まえた計画的・継続的な評価の実践 ○ 児童生徒一人一人のよさや可能性を伸ばす指導の工夫 ○ 特別な教育的支援を必要とする児童生徒一人一人に応じた指導や支援の実践
<p>学習指導</p> <p>○生きる力を伸ばす授業の創造を目指す</p> <p>一人一人の確かな学力を育む教育の推進(I)</p> <p>主体的・対話的で深い学びを目指した授業実践の推進(I)</p> <p>時代の変化に対応する教育の推進(I)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習意欲の向上と家庭学習を視野に入れた指導の推進 ○ 児童生徒一人一人に応じた指導の充実 ○ 英語教育・ICT教育の推進 ○ 各種調査(学力・学習状況調査等)結果の分析を活用した学力向上の取組の充実
<p>生徒指導</p> <p>○心豊かな児童生徒の育成を目指す</p> <p>心豊かな児童生徒の育成を目指す生徒指導の推進(II)</p> <p>いじめ・不登校の未然防止の推進(II)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 基本的な生活習慣の育成と生き甲斐のある学校生活の実現 ○ 全教職員の共通理解に基づいた校内指導体制の確立と積極的な生徒指導の推進 ○ 小・中学校を始め、家庭・地域社会、諸機関との連携の推進
<p>進路指導・キャリア教育</p> <p>○自らの生き方を考え主体的に進路を選択することができるよう、進路指導・キャリア教育の充実を図る</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全教職員による協力的指導体制の整備と系統的・組織的なキャリア教育の推進 ○ 小・中学校の連携と家庭・地域の理解が得られる体制づくり ○ 児童生徒理解に基づく進路指導・キャリア教育の推進
<p>道徳教育</p> <p>○自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、よりよく生きるための基盤となる道徳性を育成する</p> <p>豊かな心を育む教育の推進(II)</p> <p>「特別の教科」道徳IIにおける指導と評価の充実(II)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 道徳教育の重点目標を明確にした全体計画の活用による、意図的、計画的な教育活動の充実 ○ 「規律ある態度」をはじめとする基本的な生活習慣や社会生活上のきまり、基本的なモラルの育成に關する指導の充実 ○ 道徳科をはじめ、教育活動全体を通じた関連的、発展的な指導の充実
<p>総合的な学習の時間</p> <p>・自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成する</p> <p>特別活動</p> <p>○様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、集団や自己の課題を解決することを通して、資質、能力を育成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域や学校、児童生徒の実態等に応じた全体計画の作成・改善 ○ 指導と評価の計画の改善・充実に向けた組織的・計画的な取組 ○ 保護者や地域の人々の教育力を活用した体制づくりの推進 ○ 学校の創意工夫を生かした指導・評価計画の活用と改善 ○ 学級や学校での生活をよりよくするための学級活動の推進 ○ 個を生かす児童会・生徒会活動の展開
<p>学校教育相談</p> <p>○児童生徒が抱える悩みや不安などを解消するために本人又は保護者などへの支援を通じて、よりよい人格の形成を図る</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校教育相談体制の充実(さわやか相談員、SC・SSWの配置、教育センターの運営、適応指導教室の運営、特別支援教育との連携) ○ 学校教育相談の積極的推進(不登校児童生徒の登校支援) ○ 相談機関等との連携 ○ 各種調査結果の分析を活用した児童生徒理解の推進
<p>体育</p> <p>○健やかな体と豊かな心をもった児童生徒を育成する</p> <p>体力向上を目指した学校体育の充実(III)</p> <p>外部の専門的な指導方法を取り入れた体育授業の推進(III)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 心と体を一体としてとらえ、児童生徒一人一人が運動の楽しさや喜びを味わえる指導の実践 ○ 体力向上を目指した体育的活動の実践 ○ 体育施設・設備の整備と事故防止の徹底
<p>健康教育</p> <p>○生涯にわたって心身ともに健康で安全な生活を主体的に実践できる児童生徒を育成する</p> <p>食育を通じた健康教育の充実(III)</p> <p>家庭・地域と連携した安全教育・安全管理の推進(III)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 健康の大切さを認識し、健康課題を解決するための資質・能力の育成 ○ 自他の生命を尊重し、自他の安全に配慮し行動できる資質・能力の育成 ○ 食に関する正しい知識と望ましい食習慣の育成 ○ 家庭・地域社会・関係機関等と連携した取組の実践
<p>人権教育</p> <p>○人権問題を正しく理解し、人権感覚を身に付け、様々な人権問題を解決しようとする児童生徒を育成する</p> <p>学校教育における人権教育の推進(II)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全教職員の共通理解に基づく推進体制の確立 ○ 児童生徒の発達段階を踏まえた全体計画や指導計画に基づく着実な実践 ○ 他者の痛みを共有できる豊かな人権感覚の育成 ○ 保護者・地域・関係機関等との連携
<p>特別支援教育</p> <p>○全ての学校において、一人一人の教育的ニーズに応じた適切な教育を推進する</p> <p>共生社会を支える特別支援教育の推進(I)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 適切な就学相談の充実 ○ 児童生徒一人一人の実態に応じた教育的支援の充実(ことばの教室・通級指導教室) ○ 特別支援教育推進を図る校内支援体制の充実 ○ 研修の充実と指導力の向上
<p>国際理解教育</p> <p>・国際社会において信頼され、世界の平和と発展に貢献できる能力と態度の育成に努める</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ コミュニケーション能力の育成 ○ 外国人児童生徒、帰国児童生徒の支援 ○ 創意工夫を生かした特色ある指導計画の作成と活用・実践
<p>情報教育</p> <p>情報及び情報手段を主体的に収集・選択し、活用できる情報活用能力を育成する</p> <p>時代の変化に対応する教育の推進(I)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童生徒や地域の実態等を踏まえ、情報教育を位置付けた教育計画の充実 ○ ICTを活用した学習指導の充実と諸条件の整備 ○ 情報モラルを身に付け、情報手段を適切かつ主体的、積極的に活用できる学習活動の充実
<p>環境教育</p> <p>・環境を大切にするとともに主体的に行動できる能力や態度を育てる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全体計画・年間計画に基づいた指導の充実 ○ 持続可能な社会の実現のため、環境を守ろうとする心と態度の育成 ○ 地域の自然環境や社会環境等を生かした環境教育の推進
<p>ボランティア・福祉教育</p> <p>・社会福祉への関心と理解を深め、互いに支え合い、豊かに生きていこうとする心と態度を身に付ける</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 発達段階に即したボランティア活動・福祉体験の実践 ○ 学校や地域の実態に即したボランティア活動・福祉教育の推進
<p>男女平等教育</p> <p>・児童生徒一人一人が個性や能力を発揮して、自らの意思により行動できるよう、男女平等の意識を高める教育を推進する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教育活動全体を通じた組織的・継続的な指導の推進 ○ 発達段階に応じた指導内容・指導方法の工夫・改善 ○ 家庭や地域社会との連携
<p>学校図書館教育</p> <p>・学校図書館の利用に必要な基礎的な知識や方法の習得及び自発的な学習の態度の育成に努める</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校図書館の利用を位置付けた指導計画の作成 ○ 学校図書館を利用した学習の充実、情報活用能力の育成 ○ 市内各図書館と連携した子供読書活動の推進